

ユニバーサルデザインラボ

UNIVERSAL DESIGN LAB

Movie in the Dark

映画のユニバーサルデザイン

Movie in the Dark では、視覚障がい者が映画を楽しむための取り組みを行っています。ユニバーサルデザインラボを中心とするメンバーは、監督・松竹およびボランティア団体のご協力のもと、音声ガイドを作成し、来場者の皆さんにこれを体験してもらいました。そして、この音声ガイドは、映画のDVD制作・販売の際に、正式な音声ガイドとして採用されました。



Bath Room

浴室のユニバーサルデザイン

浴室は子供から高齢者まで様々な特徴を持つ方が利用し、その使われ方も様々です。ひとりひとりのユーザーが毎日、安全で快適に利用できる浴室のUDを研究しています。

ユーザーがどのような使い方をするのか、どのような行動の違いがあるのか、どこに問題があるのか等を分析し、浴室のUD配慮設計を行っています。



Elevator

エレベーターのユニバーサルデザイン

車椅子利用者や視覚障がい者の方々に協力して頂きながら、当該ラボでは、エレベーターのユニバーサルデザインを行っています。

エレベータは、公共の場で様々な方々に利用されています。エレベーター単体ばかりでなく、エレベーターホールも、そこに至るまでの通路もユニバーサルデザインの対象です。



Sign Design

スーパー・マーケットの売場におけるサイン計画のユニバーサルデザイン

スーパー・マーケット内で商品を探すのに迷ったことはありませんか？高齢者、障害者は、「商品がどこにあるのか分からない」ことを、買い物をするときに困ることとして最も多くあげています。

車椅子利用者や視覚障がい者、高齢者など様々な人がスーパーの売場でスムーズに商品を見つけることのできるような分かりやすい“サイン”を考えていきます。



一緒にユニバーサルデザインについて考える仲間を募集しています。上記に挙げた対象や、その他関連することについてディスカッションしましょう。デザインすべき様々なものに関して、要求分析により新たなデザインの提案を行い、すべての人々にバリアフリー環境を提供したいと考えています。

ご連絡先：

慶應義塾大学大学院

システムデザイン・マネジメント研究科

西村 秀和

h.nishimura@sdm.keio.ac.jp